

特集

最期まで、自分らしく

「生命」は永遠ではありません——。
 命あるものは、いずれ必ずその生涯を閉じます。
 「最期」は誰も考えたくはないことですが、
 その時は皆にやってきます。
 またそれがいつ訪れるかは、誰も分かりません。
 あなたはいずれやってくる「その時」と
 しっかりと向き合っていますか？
 本特集では、私たちがいつか直面する
 人生の「最期」との向き合い方を考えてみましょう。



Advance Care Planning

<今月の表紙>

【特集】最期まで、自分らしく



菊池スガ子さん（水沢・82歳）は、昨年9月に難病を患った夫・光雄さんを亡くしました。スガ子さんは、「発病から最期までを含め、夫婦で歩んだ道に後悔はないです」と話します。その道のりで光雄さんは、家族や医療従事者らと共に何度も「人生会議」を行い、『どのように生きていきたいか』を話し合ってきました。最期まで、自分らしく生きた光雄さん。それを支えたスガ子さん。それぞれを想う気持ちはこの先も変わりません。

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 【特集】最期まで、自分らしく
- 8 新型コロナウイルス感染症関係の情報
- 9 多文化共生のまちづくり
- 10 投票所が変わります
- 12 【グラフ】奥州市成人式
- 14 街diary
- 16 ILC希望のひかり
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 17 地域おこし協力隊佐藤幸治さん退任
2022 第6回スポニチいわて奥州きらめきマラソン 安全ピンの寄付にご協力を
- 18 もっと安心 ずっとおうしゅう
はい、こちら総合相談室
- 19 子そだて広場
- 20 インフォメーション
- 24 奥州遺産



キラリ輝く
奥州人

高橋 麗 さん (55歳)

=水沢佐倉河=

人生は一生勉強 感謝の思いを胸に恩返し

「今まで受けてきた恩をたくさんの人に返していきたいですね」。そう語るのは、昨年コロナワクチン接種会場で外国人の通訳ボランティアを担当した高橋麗さんだ。
 麗さんは来日当時は振り返り、「日本での生活に不安もありましたが、それをたくさんの方が支えてくれました」と話す。分からないことがあれば、すぐに周りの人に聞く。すると丁寧にその答えを教えてくださいました。「下手な日本語でも、心の通じ合いを感じると、安心した気持ちになりました」。

水沢地域交流館（アスパア）でほほ笑む麗さん。「私の活動が皆さんのためになると、うれしい気持ちになります」

座右の銘は、「人生は、一生勉強」と語る麗さん。これまで受けてきた感謝を胸に、麗さんはこの先もたくさんの人に笑顔を届ける。

「ありがとうございました」と思い返した。昨年のコロナワクチン接種会場では、中国語通訳を担当。通訳者が少ないことから、中国語以外を話す外国人に対しても、ジェスチャーや優しい日本語を使い、不安に思う外国人に寄り添った。「たくさんの方に感謝してもらい、とてもやりがいを感じましたね」と照れくさそうにはにかんだ。



たかはし・れい
 © 1966年、中華人民共和国ハルビン市生まれ。奥州エフエム「多言語通信局」では火曜日に中国語を担当。アスパアの活動にも積極的に参加する。趣味は読書。